

山口県指定無形民俗文化財 島田人形浄瑠璃芝居

島田人形浄瑠璃芝居は、室町時代に発生した疫病の平癒祈願として祇園社(松浦神社)に詣で奉納したことが始まりとされています。

奉納日が旧暦6月15日であり毎年奉納上演を実施していました。

現在は、毎年7月最後の日曜日に奉納上演を実施しています。

島田人形浄瑠璃芝居では1体の人形を3人が遣う「三人遣い」となっており、息のあった人形の動きをお楽しみいただけます。

～光市観光協会公式ウェブサイト ツアーガイドひかりより抜粋～



けいせいあわ なるどじゆんれいうた だん 傾城阿波の鳴門順礼歌の段

◆あらすじ◆

阿波徳島藩のお家騒動に絡み、主君の宝「国次の刀」が何者かに盗まれました。主の命を受けた十郎兵衛じゅうろう べんえは刀を取り戻すために、幼い娘のおつるを祖母に預け、妻お弓とともに名前を変えて、盗賊に身をやつして大阪に移り住んでいました。

数年後、お弓が家に1人でいたところ、巡礼姿の女の子が訪ねてきます。

「ととさんの名は十郎兵衛、かかさんはお弓と申します。」

幼いときに別れた両親を訪ねてはるばる阿波の鳴門から歩いてきたというその娘に、お弓ははっと胸を突かれ、この巡礼姿の娘が、故郷に残してきたおつるだと分かります。

切々と親への思慕を訴えるおつるに、今すぐにでも抱きしめ母親だと名乗りたい思いにかられながらも、わが子を危険に巻き込まないために名乗らず、国元へ帰るように諭します。おつるが去った後に思い直し、慌てておつるの後を追います。

一方、お弓と別れたおつるは、偶然十郎兵衛と出会います。金に困っていた十郎兵衛は、我が子とは知らず、思わず手に掛けてしまいます。お弓から、巡礼の女の子が幼い頃に別れたきりのおつるだと聞き、亡きがらを前に十郎兵衛とお弓は悲嘆にくれます。

おつるは「国次の刀」を盗んだ真犯人を知らせる祖母からの手紙を持っていました。十郎兵衛夫妻はその手紙を読み、急いで徳島へ帰参し、無事に刀を取り戻したのです。



太夫 河村 志壽枝
三味線 山田 恵子

お問合せ： 山陽小野田市文化スポーツ推進課

☎ 0836-82-1115 (文化振興係)
主催：山陽小野田市

令和4年度山陽小野田市アウトリーチ事業

山口県指定無形民俗文化財

島田人形浄瑠璃芝居

ととさんの名は十郎兵衛
かかさんはお弓と申します



新版歌祭文 「お染」
天狗屋久吉 作

殖生地区では、明治時代末まで人形浄瑠璃が盛んに演じられていました。

殖生地域交流センターには、人形浄瑠璃に使用する人形が10体保管されており、そのうち木偶（でく）人形1体が復元されました。現在は展示ケースに入れ、施設の玄関に展示されています。



開催日時 令和5年1月29日（日）

開場 13:00 / 開演 13:30

入 場 無料

会 場 殖生地域交流センター 多目的室

外 題 傾城阿波の鳴門順礼歌の段

出 演 島田人形浄瑠璃芝居保存会

お問合せ：山陽小野田市文化スポーツ推進課 ☎0836-82-1115（文化振興係）

主 催：山陽小野田市



※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容に変更が生じる場合があります。